

福祉だより

上豊富地区
福祉推進協議会
H28.11月発行

地域の福祉に思う

民生児童委員 藤原直行

この前、上豊富会館（婦人の家）でお借りした樽水の足立鐵次先生の大著『とよずみの里』を拝見していたら、昭和八年の上豊富村の人口は二千七百四十三人とあり、平成二十八年の千八百二十人と比較すると約一・五倍の人々が暮らしていたことが分かりました。

明治十九年に畑中村に純正学校が、榎原村に榎原学校が開校し、明治二十二年に七村が合併して上豊富村が誕生したと年表に記載されています。

そして平成の今、新聞等で指摘されているように圧倒的な数の団塊の世代（一九四七～一九四九年生まれ）が来年には七十歳になり福祉サービスの利用者が急激に増えていくと報道されています。団塊の世代はざっと八百万といわれ、一九五二年生まれあたりの年代をあわせれば、一千万を超

える人々が順次高齢世代へなだれ込んで行くそうです。

前に研修で伺った話ですが、日本は高齢化社会へのみちで世界の先頭を走っていて、世界中が日本の対応を注目しているが講師の先生は私は決して悲観していません、必ず日本社会は乗り越えていきますとおっしゃっていたのが大変印象的でした。

ものの本からの受け売りですが、介護（ケア）と農業は意外な共通性を持っていてどちらも世話をする（自然を世話するのが農業、人を世話するのが介護）とどちらも同じラテン語の語源からきていてやっかいなことにもう一つの共通点があるそうです。それは市場経済において十分な貨幣的な評価を受けにくいということだそうです。それは『時間』と関係していて市場経済はなによりスピードが大事で短い時間の尺度で物事を評価する。ところがケアも農業も長い時間にわたる（場合によっては世代を跨ぐ程）業種で結果が出るのが遅いという性質のものです。けれども市場経済はそんなことに付合せず短期的な効用にもつぱら関心を向け



るので、福祉や農業といった分野はその本来の価値に相当するような貨幣的な評価を受けにくいそうです。私事で恐縮ですが私も還暦を迎え、上豊富の年齢層別人口比で七・〇ポイントと〇歳から一〇〇歳までのなかで二番目に多い世代です。健康第一で頑張っていきたいと思っています。

いきいきサロン “ほほえみ”

民生児童委員 大槻正喜

当地区、奥榎原においては原則、月一回公会堂で『いきいきサロン』を実施しています。去る十月二十六日には府民リハビリテーション啓発支援事業として、京都私立病院協会に所属の方々が来所されリハビリ啓発活動を行っていただきました。

当協会所属の病院の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師さん等十五名の方々が大型バスで来られビックリ。当サロン実施に際して何度かの呼びかけをさせて頂いていたものの、どれだけ参加者がいらつしやるか心配していましたが、二十数名の方々に足を運んでいただきました。

内容としては、①頭の体操②ロコチェック・ロコトレ③嚙下体操④体力測定⑤痛み・しびれ・予防体操など大変中身のある

ものでした。

年齢を重ねるにつれ、大概の方々には体調の不具合が生じてきます。日頃からの介護予防のための体操や運動方法、認知症予防のための脳トレ、口からものを食べるための嚥下体操など、健康への意識をもちつつ日頃からの体操や運動を心掛けて頂き、地域の皆さんがいつまでも自宅で元気な日々を過ごして下さる事を願うばかりの当日のサロンでした。

上豊富文化祭に参加して

民生児童委員 足立千恵子

平成二十八年十一月六日、一時の小雨の中、文化祭が盛大に開催されました。

まず体育館前で各種団体の売店があり、そこで、昼食の品定め。体育館に入り抽選による運試し。そして保育園、小学校、各サークル、紫豊館、個人による力作の展示に感動しました。又地域の方による加工食品、野菜の販売もありました。



婦人の家では上豊富推進協議会による恒例のふれあい餅つき大会があり、参加者にて十臼の餅をついて戴き、ぜんざい・きな粉・おろし餅（希望にて今回デビュー）にして食べていただきました。

子供達は、紫豊館による恒例のプラ版でのキーホルダー作りにて自分の成長を確信し、又消防車内覧会では興味津々の様子でした。

地域の方にとっても
たくさんの方々との出会
いがあり懐かしく、
嬉しくとても有意義な
文化祭でした。



福祉研修会に参加して

民生児童委員 芦田秀敏

去る、八月二十四日に三田市広野地区、ふれあい推進協議会との交流会に参加して活動内容の説明を受けました。何より會長さんをはじめ、皆さんが買物物の付き添いや手助けをされる等、前向きに考え行動に移された事。そして各団体はもろんのこと、高校生の積極的な参加や小中学生とのふれあいの場をもうける等、利用される方が喜んで参加出来る工夫がされていると感心しました。

ボランティアの方の協力もあり高齢者の皆さんが元気に暮らせる仕組みが出来上っていると思えます。現在に至るまでには行政や法律上の事等ご苦労があったと思います。実施されていることに感動さえ覚えませんでした。また参考出来る事は取り入れたらいいと思えます。



『編集後記』

福祉だより作成にあたり、原稿依頼を気持ちよくお受けいただいた皆様に感謝申し上げます。三年間アツと云う間でした。なれない文章や画像のレイアウトに苦労しましたが、お陰様で、パソコンの勉強にもなり大変よかったです喜んでおります。

今後共、上豊富福祉推進協議会にご理解とご協力の程よろしくお願い致します。